

## V 最後に

最後に、先が見透かせない息苦しさがまん延する中、どのような社会を築いていけば誰もが幸せになれるのか、新しい社会の選択に迫られています。これまでのように「夢よ、もう一度」と高度経済成長や効率性、合理性を優先する「競争社会」の中で生きていくのか、それとも、みんなで協力し助け合い、安心できるセーフティネットが整備された「協力社会」を目指すのか、自らの責任で選ばなければなりません。

柴田町が選択すべき新しい道とは、「自然との共生」「人と人との絆」「行政と住民との信頼」を大切にした「協力社会」ではないかと思います。私は、相手を思いやる「協力社会」を築いていくことで、安心してチャレンジできる環境が整い、強いては地域の活性化による持続的な経済発展や一人一人の幸福感につながっていくと考えています。

今年度の町政運営に当たっては、これまで積み残してきた事業や弱い立場にいる人に目配せしながら、当面する課題一つ一つを着実に解決できるよう努めていきます。さらに、グローバル化の中での飛躍的な発展をにらみ、未来を見越した先行投資も積極的に行います。目先の利害調整ばかりが政治でなく、未来に責任を負うのも政治であり、政治家の務めでもあるからです。施策の優先順位については、住民の声に耳を傾けながら、政治家としての情熱はもとより先見力・構想力・決断力を持って決定していきます。

今後とも町政を預かるリーダーとして、柴田町が先駆的な自治体モデルとなるように、時代の変化を先読みし、スピード感を持って行動し、町民の皆様や議会の皆様の智恵や創意工夫を結集しながら、希望に満ちた質の高いコンパクトシティをつくっていきたいと思っております。

議員各位のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。